

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2013年第15週
(4月8日～4月14日)

- * 2013年4月17日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2013年3月)の疾患及び感染症豆知識
「ワクチンの同時接種」も掲載しています。

平成25(2013)年4月18日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2013年15週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		12週	13週	14週	15週	年累計	15週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	60	62	89	67	1,064	361	6,717
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢	3				8	3	35
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	2	2	18	12	188
	腸チフス	1	2	1		9	1	20
	パラチフス	2				6	1	18
四類	E型肝炎	2		1	1	16	3	41
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			1		6	3	48
	エキノコックス症							5
	黄熱							
	オウム病					2	2	3
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症	2				2		2
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 *2						1	6
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					2		5
	つつが虫病							33
デング熱		2	1		9	2	42	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1を除く)								
ニパウイルス感染症								
日本紅斑熱							1	
日本脳炎								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		12週	13週	14週	15週	年累計	15週	年累計
四 類	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症						1	1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1				4		14
	野兔病							
	ライム病							1
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		2
	レジオネラ症	2	1	1		19	7	196
	レプトスピラ症							1
ロッキー山紅斑熱								
2013/4/17集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。2013年3月4日より新たに追加指定された。

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 67件 肺結核 40件、その他の結核 13件、肺結核及びその他の結核 2件、無症状病原体保有者 10件、疑似症 2件、年齢は10歳未満 2件(うち5歳未満 1件)、20代 5件、30代 6件、40代 11件、50代 6件、60代 10件、70代 9件、80代 15件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 66件、国内又は国外(渡航先不明) 1件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 2件 患者 2件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 1件、O157 VT2 1件、年齢は5歳未満 1件、20代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は経口感染 1件、その他(不明) 1件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染(焼いた豚肉の喫食)であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2013年15週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		12週	13週	14週	15週	年累計	15週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	3	7	3	57	13	262
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	2		3	2	20	3	63
	急性脳炎 *1	3	3		2	17		130
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			4		42
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1	7	3	62
	後天性免疫不全症候群	4	13	8	4	116	16	364
	ジアルジア症			1	1	6	2	18
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *2			1	1	2	1	4
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *2				1	1	1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症 *2			1	1	2	9	38
	髄膜炎菌性髄膜炎 *3							2
	先天性風しん症候群		1			1		3
	梅毒	8	7	7	9	102	14	274
	破傷風					2		20
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					4		22
風しん	127	128	156	160	1,484	495	4,068	
麻しん	4	1	3	1	31	13	103	
2013/4/17集計								

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2013年4月1日より新たに追加指定された。

*3 2013年4月1日より指定が解除された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 腸管 2件、腸管及び腸管外 1件、年齢は30代 1件、40代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、不明 1件、推定感染経路は性的接触(性別不明) 1件、異性間性的接触又はその他(不明) 1件、その他(不明) 1件であった。

ウイルス性肝炎 2件 B型 2件、年齢は40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は異性間性的接触 1件、その他(不明) 1件であった。

急性脳炎 2件 病原体不明 2件、年齢は10歳未満 2件(うち5歳未満 1件)、推定感染地は国内 2件、推定感染経路はその他(不明) 2件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 A群、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は創傷感染であった。

後天性免疫不全症候群 4件 無症候キャリア 3件、その他 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 1件、30代 3件、推定感染地は国内 3件、不明 1件、推定感染経路は同性間性的接触 3件、異性間性的接触 1件であった。

ジアルジア症 1件 年齢は20代、推定感染地は中国又はネパール又はインド、推定感染経路は経口感染又は水系感染 1件であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件 血清型はb型、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)、ヒブワクチン接種歴は不明であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症 1件 血清型は未実施、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、共同生活はなしであった。

侵襲性肺炎球菌感染症 1件 血清型は未実施、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)、肺炎球菌ワクチン接種歴はなしであった。

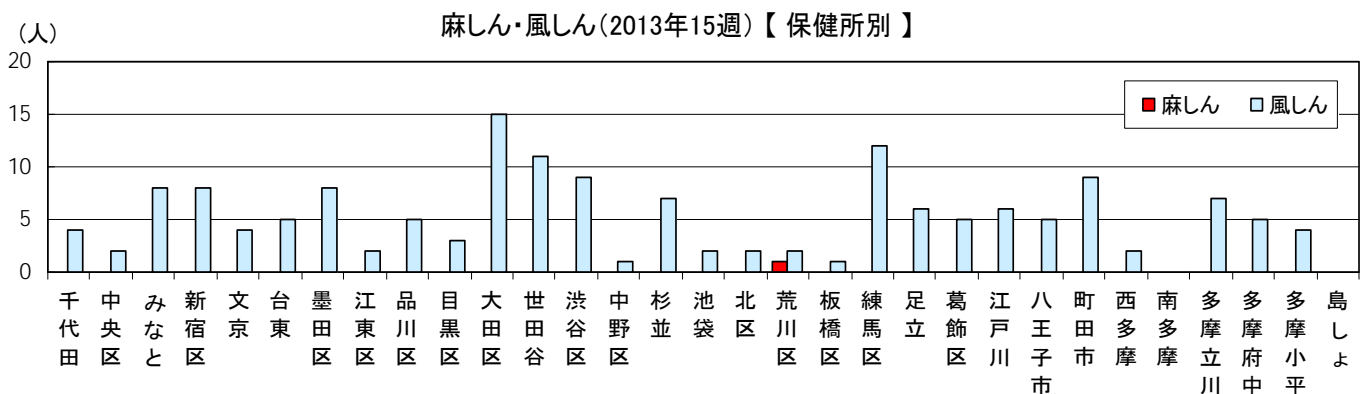
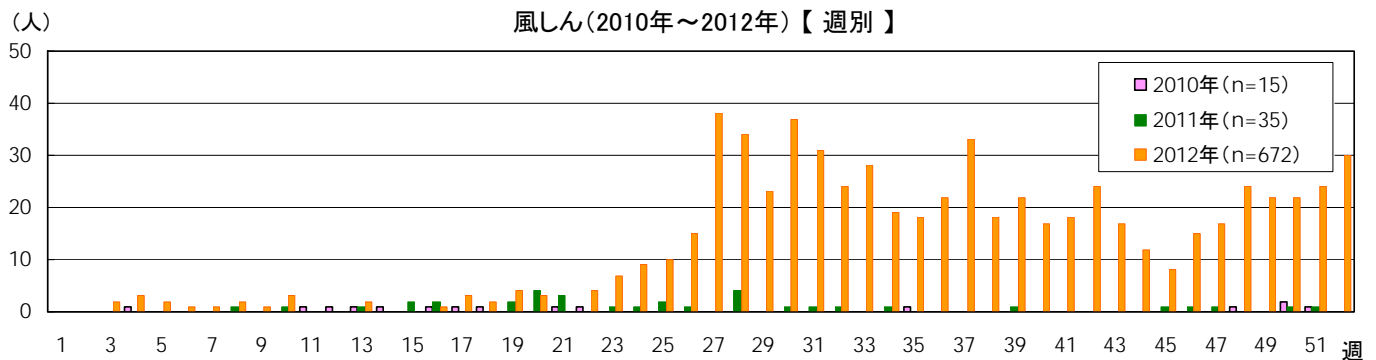
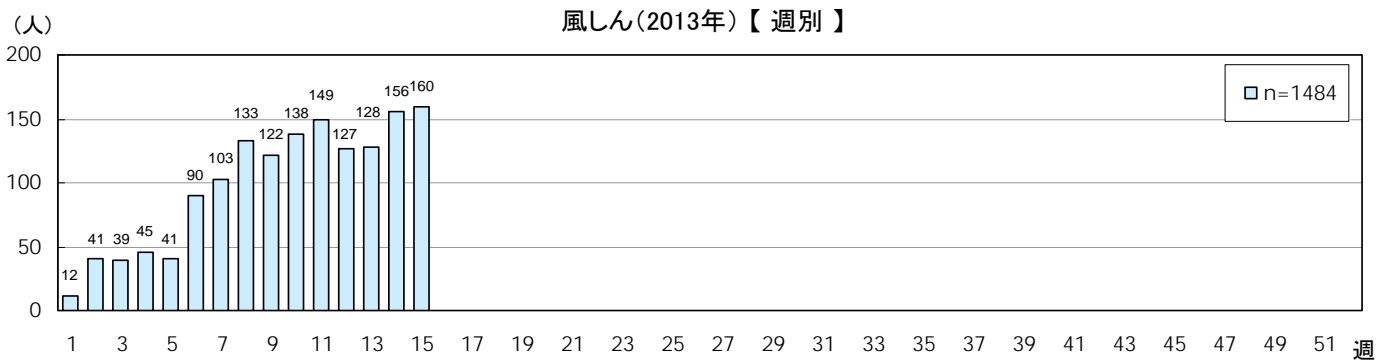
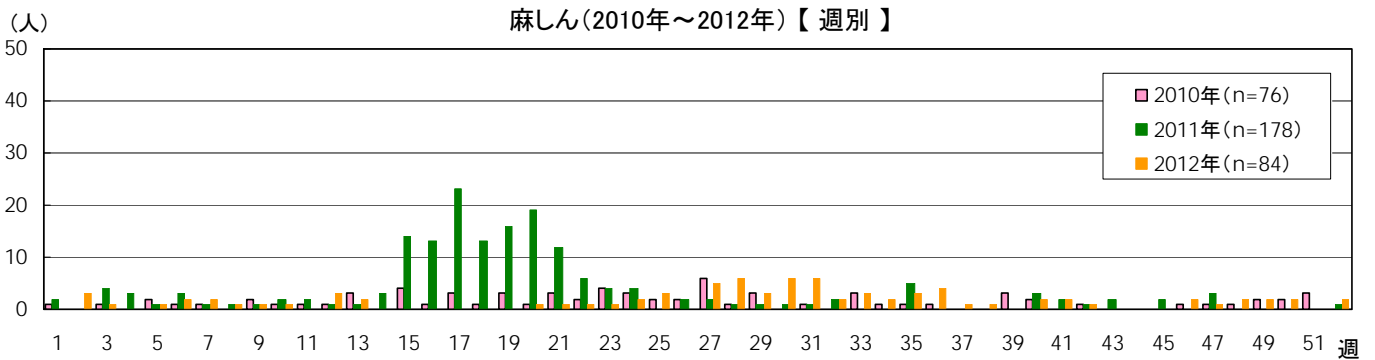
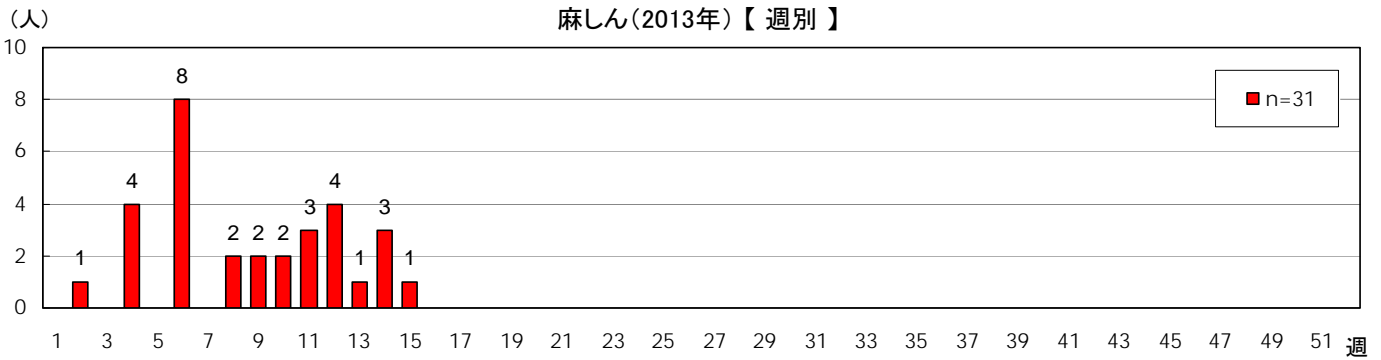
梅毒 9件 早期顕症梅毒Ⅰ期 2件、早期顕症梅毒Ⅱ期 2件、晩期顕症梅毒 1件、無症候梅毒 4件、年齢は10代 1件、20代 2件、30代 2件、40代 2件、50代 2件、推定感染地は国内 9件、推定感染経路は同性間性的接触 4件、異性間性的接触 2件、その他(不明) 3件であった。

風しん 160件 検査診断例 105件、臨床診断例 55件、年齢は10歳未満 7件(うち5歳未満 3件)、10代 13件、20代 42件、30代 45件、40代 40件、50代 8件、60代 4件、70代 1件、推定感染地は国内 158件、ドイツ 1件、国内又は中国 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 62件、接触感染 16件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1件、飛沫・飛沫核感染又はその他(不明) 1件、その他(不明) 80件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 9件、2回接種 2件、接種なし 46件、不明 103件であった。

麻しん 1件 臨床診断例、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)、麻しん含有ワクチン接種歴は1回接種であった。

※ 第14週該当分として、〔五類〕ウイルス性肝炎 2件、後天性免疫不全症候群 1件、風しん 4件の追加報告があった。

全数把握対象疾患(麻しん・風しん)報告数(週別・保健所別)



定点把握対象疾患 報告数 2013年15週

定点種別	対象疾患	2013年					報告医療機関数	定点医療機関数
		12週	13週	14週	15週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	39	46	26	28	0.11	260	264
	咽頭結膜熱	50	67	63	68	0.26		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	639	571	498	556	2.14		
	感染性胃腸炎	2,864	2,252	2,000	1,985	7.63		
	水痘	224	179	189	204	0.78		
	手足口病	25	19	18	29	0.11		
	伝染性紅斑	23	20	29	31	0.12		
	突発性発しん	149	159	156	194	0.75		
	百日咳	1	2	1	1	0.00		
	ヘルパンギーナ	7	2	3	9	0.03		
	流行性耳下腺炎	55	37	51	56	0.22		
	川崎病(注1)	3	4	6	2	0.01		
	不明発しん症(注1)	17	13	13	23	0.09		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	870	426	337	233	0.56	413	419
眼科	急性出血性結膜炎			2			38	39
	流行性角結膜炎	11	21	24	14	0.37		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)						25	25
	無菌性髄膜炎	3	2	3	2	0.08		
	マイコプラズマ肺炎	10	7	8	8	0.32		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	1	1				
	インフルエンザ入院(注4)	6	2	2	2	0.08		

2013/4/17集計

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

(注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。
- ・ 突発性発しんの定点当たり報告数は増加した。
- ・ 不明発しん症の定点当たり報告数は増加した。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

港区

- ・ 感染性胃腸炎24名中、ロタウイルス 1名。

台東区

- ・ 8か月児は、RSウイルス感染症と伝染性紅斑の同時感染でした。

世田谷区

- ・ 感染性胃腸炎の乳児は、すべてロタウイルス感染です。
- ・ ロタウイルス 5名(1歳児、2歳児、3歳児、8歳児、成人、各1名)。
- ・ 10代の1名は、ジアンotteイ病疑い。

板橋区

- ・ 便ロタウイルス抗原陽性 2名、便アデノウイルス抗原陽性 1名。

練馬区

- ・ 水痘が増えてきた。

荒川区

- ・ ロタウイルス 1名。
- ・ 感染性胃腸炎は、ロタウイルス迅速キット陽性 4名。アデノウイルスによる咽頭炎は 1名。ヒトメタニューモウイルス迅速キット陽性 9名。
- ・ 感染性胃腸炎は、病原性大腸菌O1、O15、O119、O126、ウェルシュ菌、プレジオモナス・シゲロイデス各1名。O25 2名。カンピロバクター 3名。

八王子市

- ・ ロタウイルス 1名。

南多摩

- ・ 感染症の患者さんは少なかったです。

多摩小平

- ・ 病原性大腸菌、アデノウイルス腸炎 各2名。ロタウイルス腸炎 9名。ヒトメタニューモウイルス 12名。

※「定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント」は15ページに記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2013年15週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
～5か月	9			24	4			4			
～1歳	8	3	5	146	14	4	3	69			
1歳	8	24	21	344	30	6	1	100		1	
2歳	1	8	27	218	37	8	2	16	1		5
3歳	1	10	70	204	36	2		1			3
4歳		8	80	184	33	2	6	4			11
5歳		5	75	144	19	1	4			2	17
6歳		2	59	80	12		7			1	6
7歳		1	56	106	4	3	2			2	2
8歳		1	38	69	6	1	1				4
9歳		1	26	58	5	1	4			1	2
10～14歳		3	53	126	3		1				5
15～19歳				37							1
20～29歳	1	2	46	245	1	1				2	
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	28	68	556	1,985	204	29	31	194	1	9	56
先週比	2	5	58	-15	15	11	2	38		6	5

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹				
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	インフルエンザ入院
～5か月		1								
～1歳		5	5							
1歳	1	6	10				1	2		
2歳	1	2	16		1		1	2		
3歳		2	8		1					
4歳		2	14							
5歳			13							
6歳		1	10					1		
7歳			15							
8歳		1	9							
9歳			4							
10～14歳			31					1		
15～19歳		2	12							
20～29歳		1	20					1		
30～39歳			29		4					
40～49歳			20		2					1
50～59歳			11		2					
60～69歳			1		2					
70～79歳			5		2					
80歳以上								1		1
合計	2	23	233		14		2	8		2
先週比	-4	10	-104	-2	-10		-1		-1	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2013年15週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田			0.33	1.33	0.33					
中央区	0.33		2.00	6.33	0.33			1.00		
みなと	0.33	0.67	2.17	9.33	0.67	0.67	0.50	0.50		0.17
新宿区	0.13	0.25	1.13	8.63	0.25		0.13	0.50		
文京		0.25	2.75	4.00	0.25			0.25		
台東	0.25		1.50	3.75	1.25		0.50	0.75		
墨田区	0.60	0.20	0.60	4.20	0.40	0.20		1.20		
江東区	0.22	0.22	2.33	14.67	2.33	0.22		1.22		
品川区			1.75	8.00	0.50	0.13		0.50		
目黒区				3.00	0.60			0.60		
大田区	0.08	0.31	3.31	11.31	0.62	0.15	0.15	1.31		0.08
世田谷	0.07	0.20	1.47	11.67	0.67		0.07	0.67		
渋谷区			0.75	3.50	1.00	0.50		0.25		
中野区	0.33	0.17	0.33	6.00	0.33			0.33		
杉並	0.10		1.20	7.70	0.20	0.10		1.00		
池袋		1.00	1.80	7.40	0.60	0.20				0.20
北区		0.14	0.14	5.00	0.86			1.14		
荒川区		0.25	1.25	8.00	0.25		0.50	2.00		
板橋区			1.00	4.33	0.22			0.56		
練馬区		0.31	2.85	6.92	1.77	0.08		0.92	0.08	
足立	0.08	0.25	1.50	8.67	0.58		0.33	0.58		0.08
葛飾区			1.63	8.00	0.88			0.63		
江戸川	0.25	0.42	1.67	5.92	0.67		0.08	0.50		
八王子市		0.45	5.18	13.18	1.09	0.82	0.18	1.09		
町田市	0.13	0.25	7.38	14.50	0.75	0.13	0.13	0.63		0.13
西多摩	0.13	0.38	0.63	5.63	1.13		0.25	0.63		0.13
南多摩	0.22	0.33	2.67	6.00	0.44		0.44	0.67		0.33
多摩立川	0.07	0.21	1.36	4.36	1.86	0.14	0.29	0.57		
多摩府中	0.05	0.24	2.71	7.05	0.67	0.10	0.05	0.90		
多摩小平	0.20	0.67	3.80	5.60	0.40		0.07	0.67		
島しょ										
東京都	0.11	0.26	2.14	7.63	0.78	0.11	0.12	0.75	0.00	0.03

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田			0.33	0.25					0.50		
中央区				0.80							
みなと	0.33			1.00							
新宿区			0.13	0.08							
文京				0.14		1.00					
台東				0.43							
墨田区			0.20	1.00							
江東区	0.11			0.79		1.00					
品川区			0.25	0.17		1.00					
目黒区				0.38							
大田区			0.31	0.81		0.50					
世田谷	0.07		0.27	0.67				0.50			
渋谷区				0.43							1.00
中野区	0.33			0.10							
杉並	0.30			0.53							
池袋			0.20	0.38							
北区	0.29			0.27							
荒川区	0.50		0.25	0.86		1.00					
板橋区			0.11	0.33		0.50					
練馬区		0.08		0.86							
足立	0.50			0.26							
葛飾区	0.25			0.38		1.00			5.00		
江戸川	0.17		0.08	0.53		0.50					
八王子市	0.27	0.09	0.27	0.67		0.50		1.00			
町田市			0.13	0.38							
西多摩	0.50			0.86							
南多摩	1.11			0.43							
多摩立川	0.29			0.75		0.50					
多摩府中	0.57		0.10	0.67							0.33
多摩小平				0.70		2.00			1.00		
島しょ				1.00							
東京都	0.22	0.01	0.09	0.56		0.37		0.08	0.32		0.08

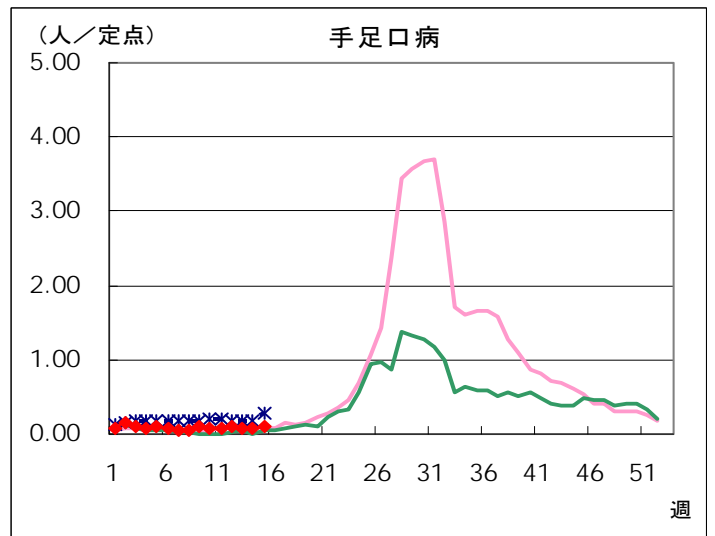
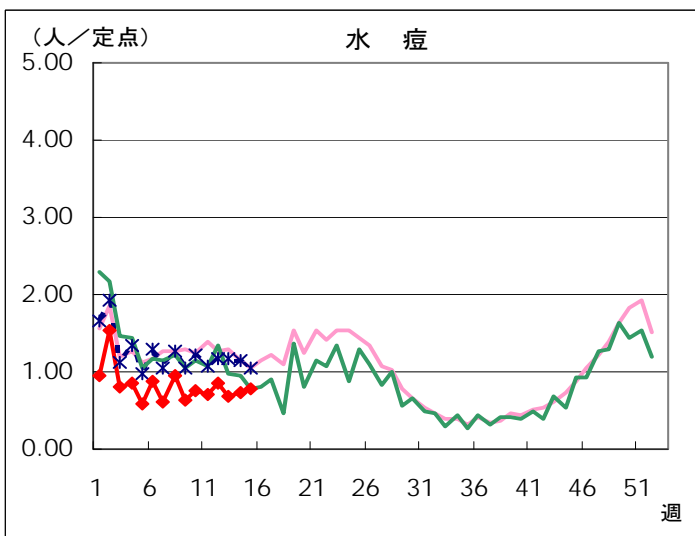
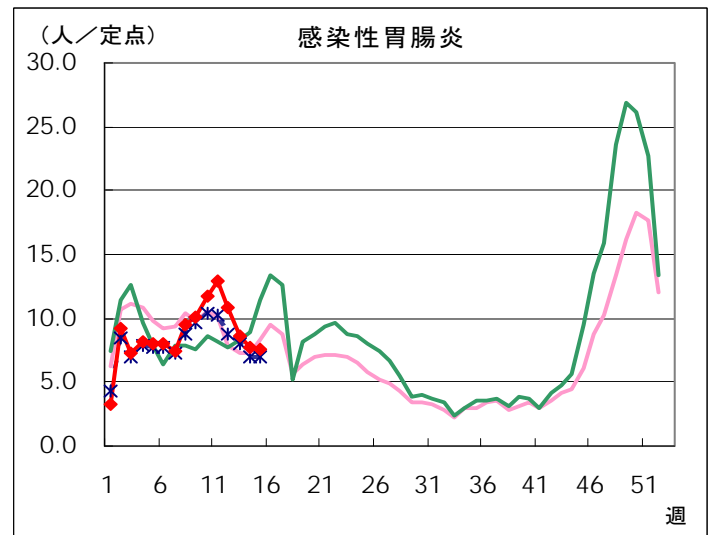
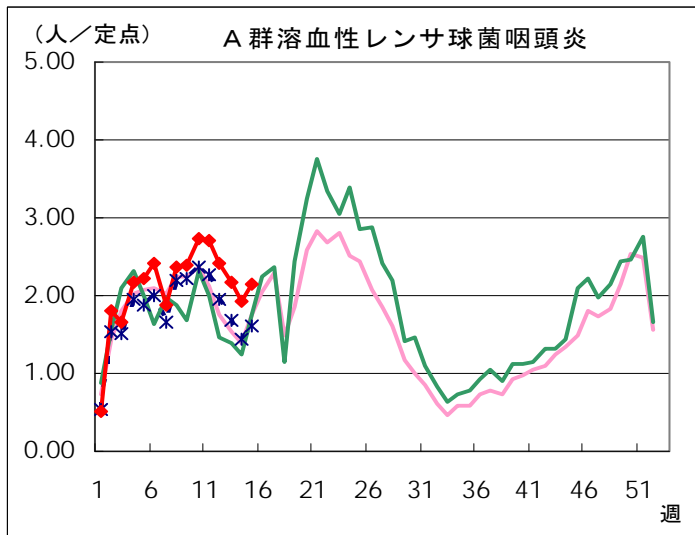
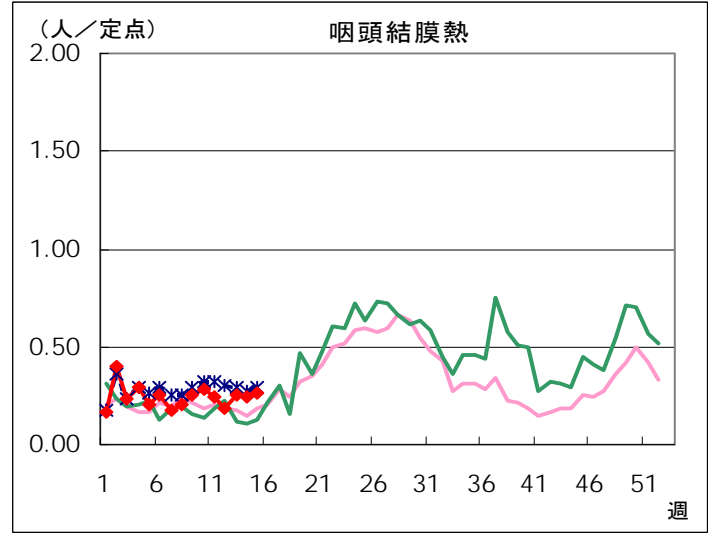
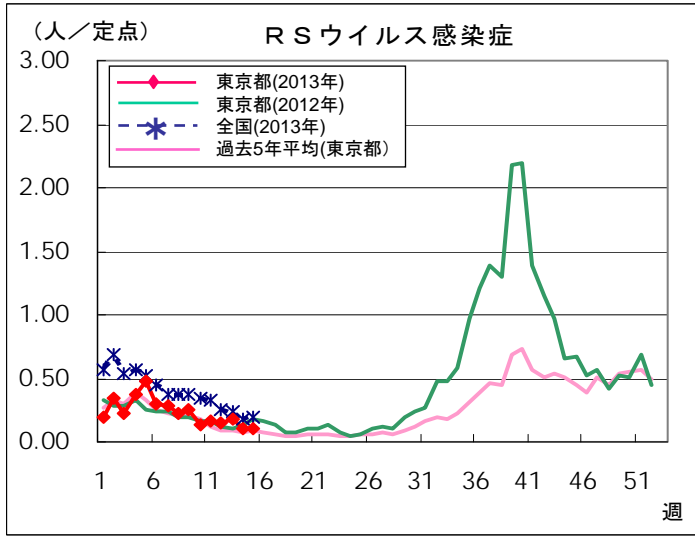
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2013年15週

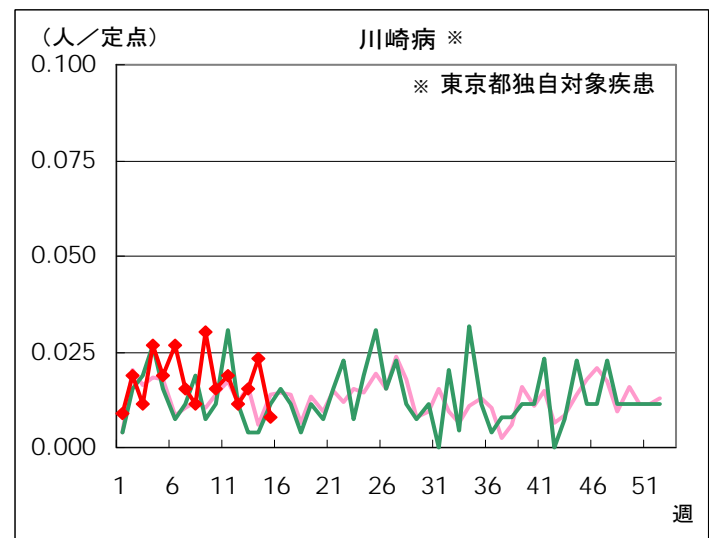
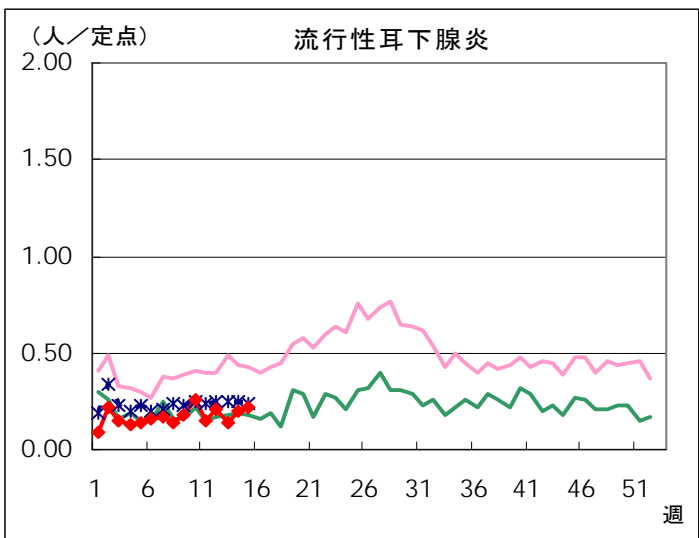
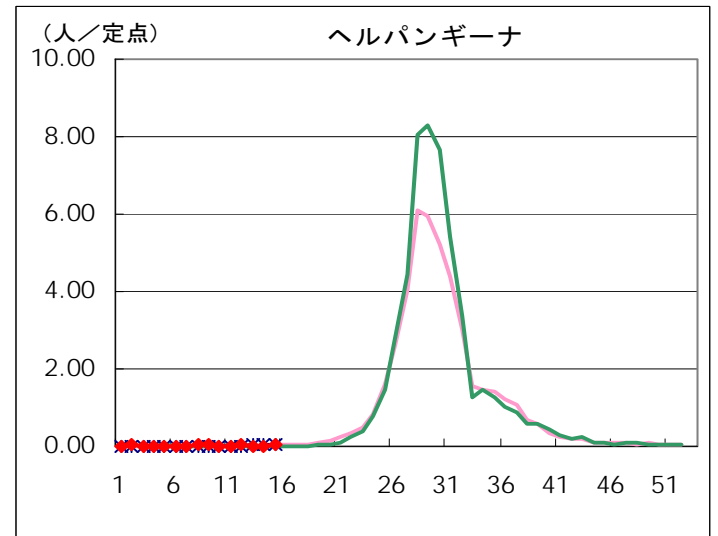
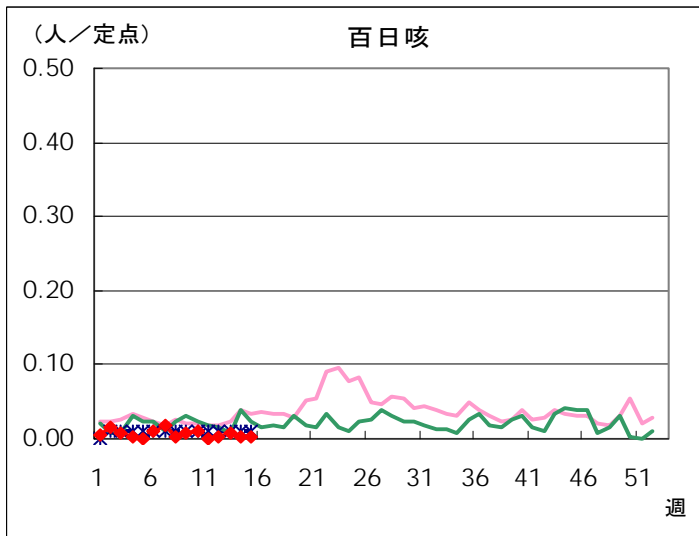
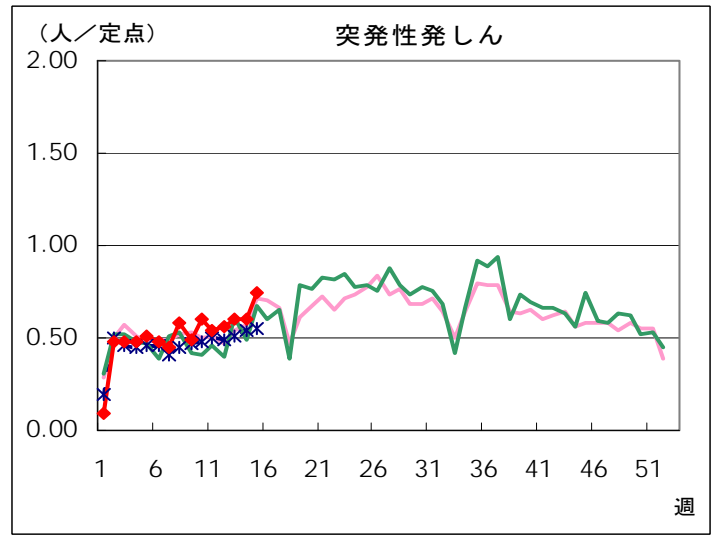
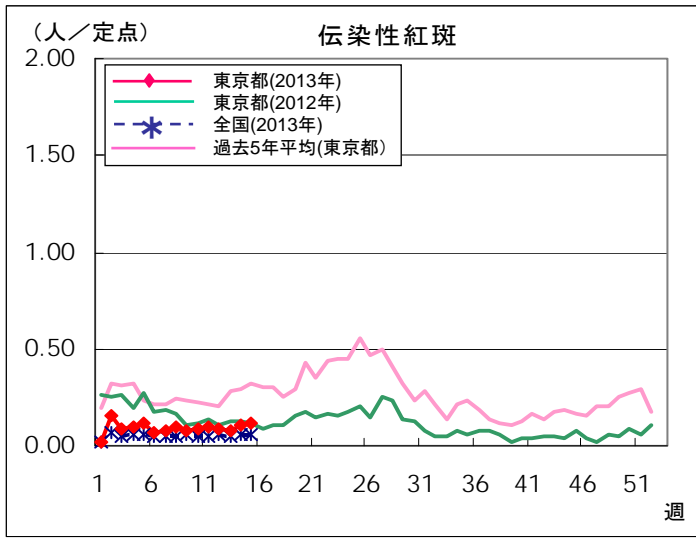
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田			1	4	1					
中央区	1		6	19	1			3		
みなと	2	4	13	56	4	4	3	3		1
新宿区	1	2	9	69	2		1	4		
文京		1	11	16	1			1		
台東	1		6	15	5		2	3		
墨田区	3	1	3	21	2	1		6		
江東区	2	2	21	132	21	2		11		
品川区			14	64	4	1		4		
目黒区				15	3			3		
大田区	1	4	43	147	8	2	2	17		1
世田谷	1	3	22	175	10		1	10		
渋谷区			3	14	4	2		1		
中野区	2	1	2	36	2			2		
杉並	1		12	77	2	1		10		
池袋		5	9	37	3	1				1
北区		1	1	35	6			8		
荒川区		1	5	32	1		2	8		
板橋区			9	39	2			5		
練馬区		4	37	90	23	1		12	1	
足立	1	3	18	104	7		4	7		1
葛飾区			13	64	7			5		
江戸川	3	5	20	71	8		1	6		
八王子市		5	57	145	12	9	2	12		
町田市	1	2	59	116	6	1	1	5		1
西多摩	1	3	5	45	9		2	5		1
南多摩	2	3	24	54	4		4	6		3
多摩立川	1	3	19	61	26	2	4	8		
多摩府中	1	5	57	148	14	2	1	19		
多摩小平	3	10	57	84	6		1	10		
島しょ										
東京都合計	28	68	556	1,985	204	29	31	194	1	9

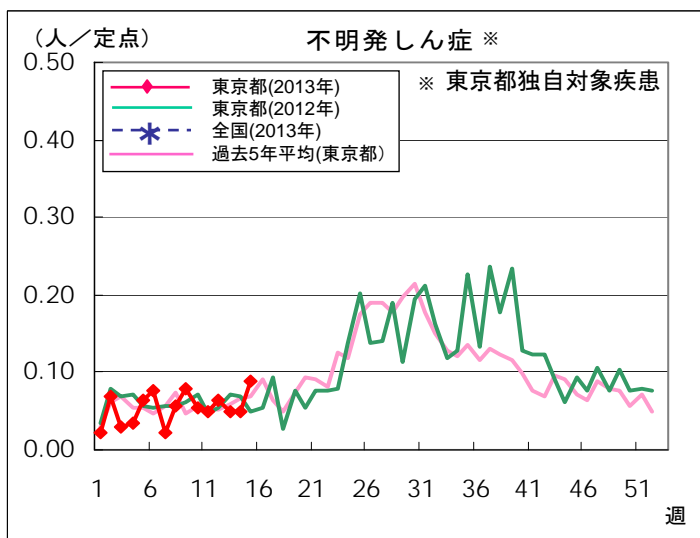
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田			1	1					1		
中央区				4							
みなと	2			9							
新宿区			1	1							
文京				1		1					
台東				3							
墨田区			1	8							
江東区	1			11		1					
品川区			2	2		1					
目黒区				3							
大田区			4	17		1					
世田谷	1		4	16				1			
渋谷区				3							1
中野区	2			1							
杉並	3			8							
池袋			1	3							
北区	2			3							
荒川区	2		1	6		1					
板橋区			1	5		1					
練馬区		1		18							
足立	6			5							
葛飾区	2			5		1			5		
江戸川	2		1	10		1					
八王子市	3	1	3	12		1		1			
町田市			1	5							
西多摩	4			12							
南多摩	10			6							
多摩立川	4			15		1					
多摩府中	12		2	22							1
多摩小平				16		4			2		
島しょ				2							
東京都合計	56	2	23	233		14		2	8		2

定点把握対象疾患 週別報告数(2013年15週 現在)

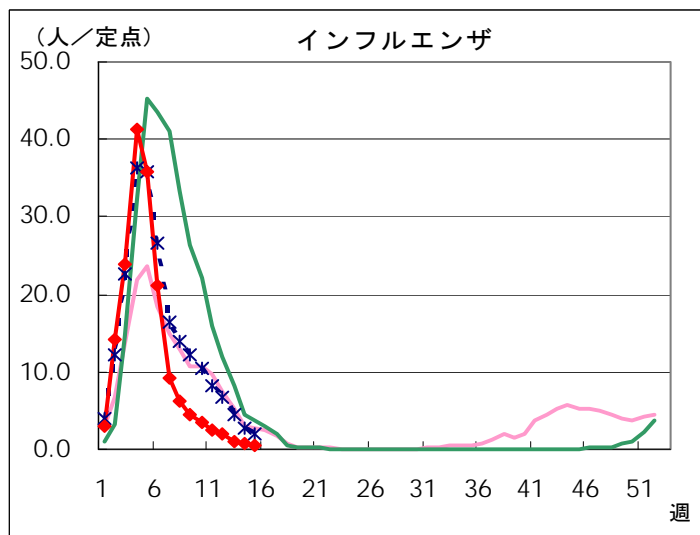
◆ 小児科定点



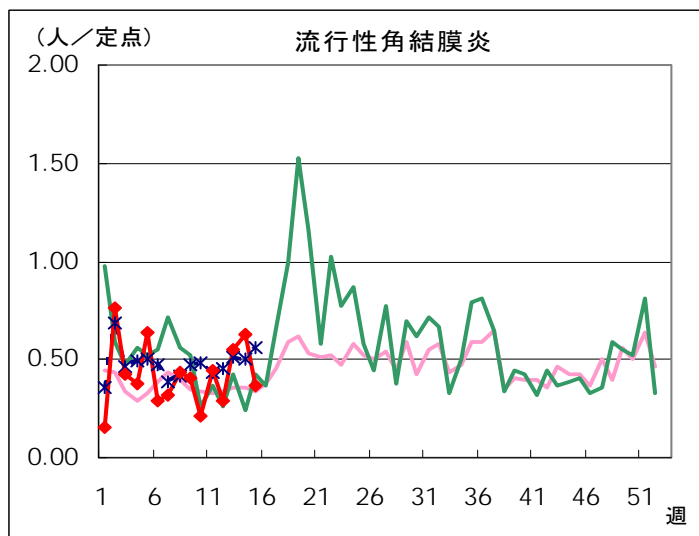
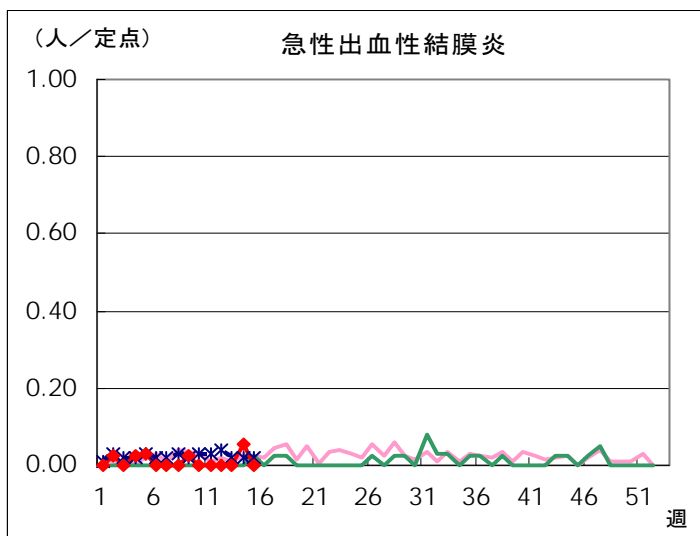




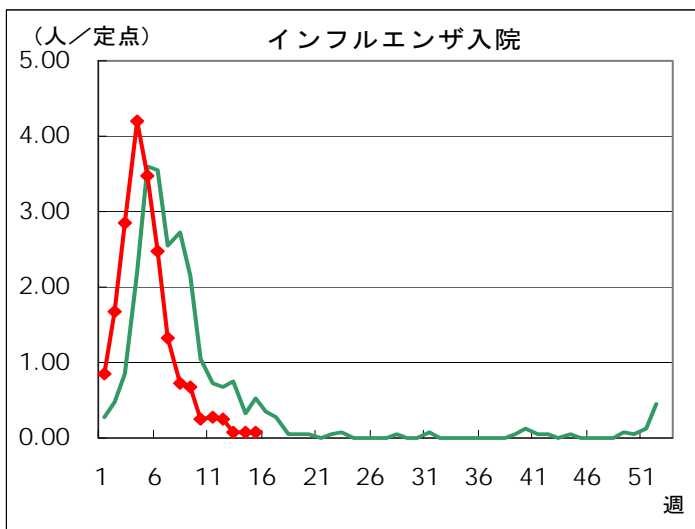
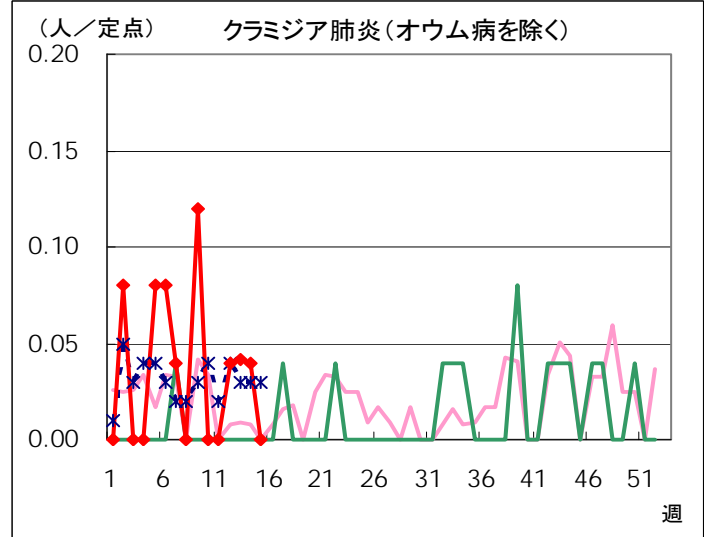
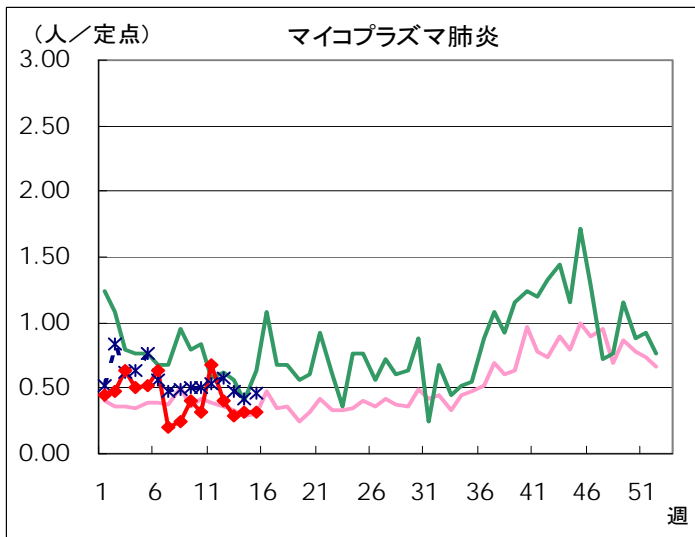
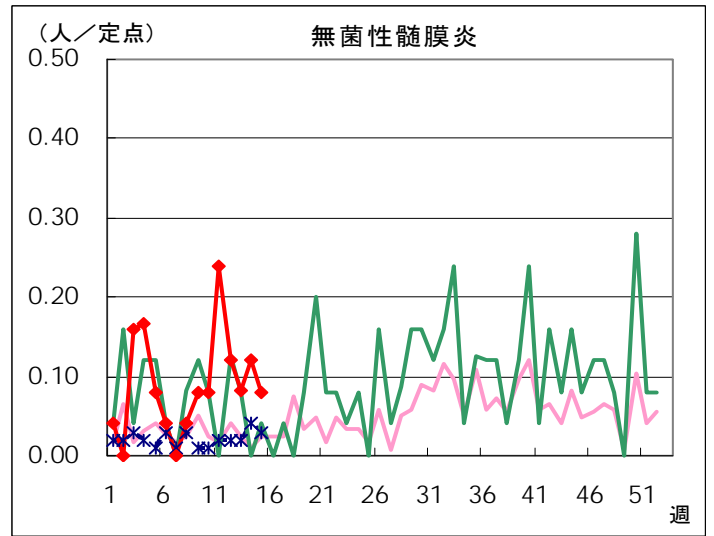
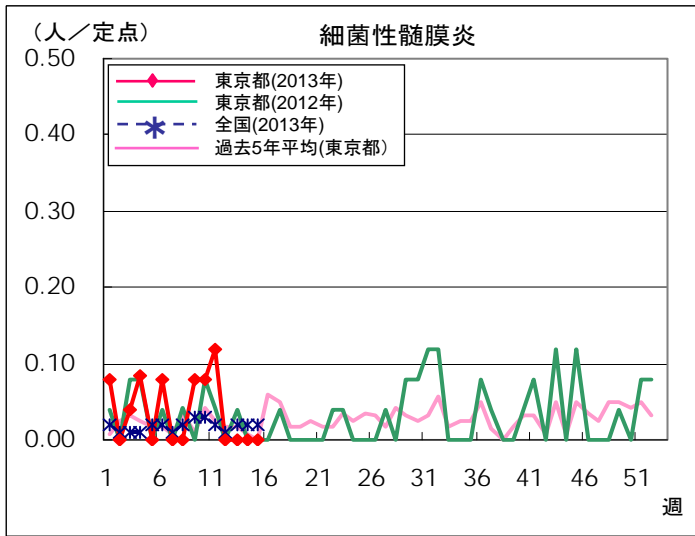
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関からいただきました、インフルエンザ迅速診断結果とコメントを下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果			医療* 機関数	備 考
	A型	B型	記載なし		
みなと	1	7		2	
台東	1			1	
墨田区		4		3	
江東区	3	8		5	
品川区	1	1		2	
目黒区		2		1	
大田区	1	1	2	3	
世田谷	2	4		2	・報告の2名は、インフルエンザB型の兄弟です。
中野区	1			1	
北区		1		1	
荒川区		6		2	
練馬区	3	7		3	・報告5名のうちインフルエンザA型は2名、B型は3名。中国への渡航者無し。
葛飾区	4	1		3	
八王子市		11		6	
町田市		1		1	
西多摩	1	5		5	
南多摩	2	3		4	
多摩立川		5		1	
多摩府中		3		1	
多摩小平	1	9		7	
総計	21	79	2	54	

* 迅速診断結果をご報告いただいた医療機関数

定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/2	ヘルパンギーナ	11M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
3/30	エンテロウイルス感染症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
4/1	川崎病	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
3/29	血小板減少症 突発性発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
4/4	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
4/4	肺炎	2	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	
3/26	不明発しん症	2	咽頭拭い液	ライノウイルス サイトメガロウイルス	
4/1	感染性胃腸炎	3	直腸拭い液	A群ロタウイルス	抗原
3/30	肺炎	3	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	遺伝子
3/30	流行性角結膜炎	62	結膜拭い液	アデノウイルス	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
14週			2	4
2012-2013年 シーズン累計**	2		233	33

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2012-2013シーズンの開始は第36週(2012年9月3日～)

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2013年							
		7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週
ウイルス	アデノウイルス	3	1	1		1	1	2	1
	ライノウイルス	2	3	5	5	5	2	2	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス		1	8	5	3			2
	単純ヘルペスウイルス	1					2		
	水痘・帯状疱疹ウイルス		2			1			
	ヘルペスウイルス6/7	3	1	8	7	5	2	2	2
	EBウイルス	1	1	3	1		1		
	サイトメガロウイルス		1	1	1	1		1	1
	ムンプスウイルス	1	1	2		1	2	5	
	麻疹ウイルス					1		1	
	風疹ウイルス		1	1	3	4		3	
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス	1	3	2	1	1	1	1	
	ノロウイルス	1		1		1	1	1	
	ロタウイルス		1		2	1	3		1
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3	7	9	6	9	7	3	2	2
	インフルエンザウイルスB	2	2	5	2	1	3	4	4
インフルエンザウイルスAH1pdm09									
デングウイルス(抗体を含む)					1		1		
その他のウイルス	1	2	2	9	7	9	4	2	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2013年7週～2013年14週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		75	19	35	31	18	2	1	6	2	5	2	33	9	3		14	85	
ウ イ ル ス	アデノウイルス	2	1	1			1		4				1						
	ライノウイルス	1	2	4					1			1	5	1	2		1	8	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群																		
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス		2	2						2	4		6					3	
	単純ヘルペスウイルス		1			1													1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス														3				
	ヘルペスウイルス6/7		1	1							3		11					1	13
	EBウイルス		1						1	1			1					1	2
	サイトメガロウイルス												3						3
	ムンプスウイルス					4								7					1
	麻しんウイルス												1						1
	風しんウイルス												2					9	1
	パルボウイルスB19																		
	RSウイルス		1	9															
	ノロウイルス				5														
	ロタウイルス	1			7														
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	45																		
インフルエンザウイルスB	22	1																	
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス (抗体を含む)																		2	
その他のウイルス	2	4	20	8									1					1	
細 菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2013年3月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり	合計	定点当たり	報告医療機関数	定点医療機関数
性感染症	性器クラミジア感染症	男	123	2.32	198	3.74	53	55
		女	75	1.42				
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	73	1.38	109	2.06		
		女	36	0.68				
	尖圭コンジローマ	男	66	1.25	88	1.66		
		女	22	0.42				
	淋菌感染症	男	83	1.57	99	1.87		
		女	16	0.30				
	膣トリコモナス症 *1	男			12	0.23		
		女	12	0.23				
梅毒様疾患	男	15	0.28	15	0.28			
	女							
基幹	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	男	37	1.54	56	2.33	24	25
		女	19	0.79				
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	男	15	0.63	19	0.79		
		女	4	0.17				
	薬剤耐性緑膿菌感染症	男						
		女						
	薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2	男						
		女						

2013/4/17

*1 性感染症定点から報告される『膣トリコモナス症』とは、原虫の一種である膣トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膣、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

*2 2011年2月1日より新たに指定された。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症・基幹) 報告数【年齢階級別】2013年3月

男										
年齢階級	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	陰トリコ モナス症	梅毒様疾患	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症	薬剤耐性 アシネトバク ター感染症
0歳							2	2		
1～4歳							6	8		
5～9歳							1			
10～14歳										
15～19歳	5	2	4	4			1			
20～24歳	10	7	2	8		2				
25～29歳	38	9	10	14		1				
30～34歳	23	10	16	19		4	2			
35～39歳	17	9	16	22		3	1			
40～44歳	14	13	5	9		2	1			
45～49歳	7	9	4	1						
50～54歳	5	2	3	5		2	1			
55～59歳	2	1				1	1			
60～64歳	1	6	2	1			2			
65～69歳	1	1	2							
70歳～		4	2				19	5		
合計	123	73	66	83		15	37	15		
先月数	118	60	48	88		8	41	28	1	
増減数	5	13	18	-5		7	-4	-13	-1	

女										
年齢階級	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	陰トリコ モナス症	梅毒様疾患	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症	薬剤耐性 アシネトバク ター感染症
0歳							4			
1～4歳							2	3		
5～9歳										
10～14歳										
15～19歳	12		3	1	1					
20～24歳	22	8	11	6	1					
25～29歳	18	11	4	7	3					
30～34歳	12	6	1	1	1					
35～39歳	7	3	2		2					
40～44歳	3	1	1	1	1		1			
45～49歳							2			
50～54歳	1	1								
55～59歳		1					2			
60～64歳		1			1					
65～69歳		1								
70歳～		3			2		8	1		
合計	75	36	22	16	12		19	4		
先月数	67	33	31	9	11	2	19	15		
増減数	8	3	-9	7	1	-2		-11		

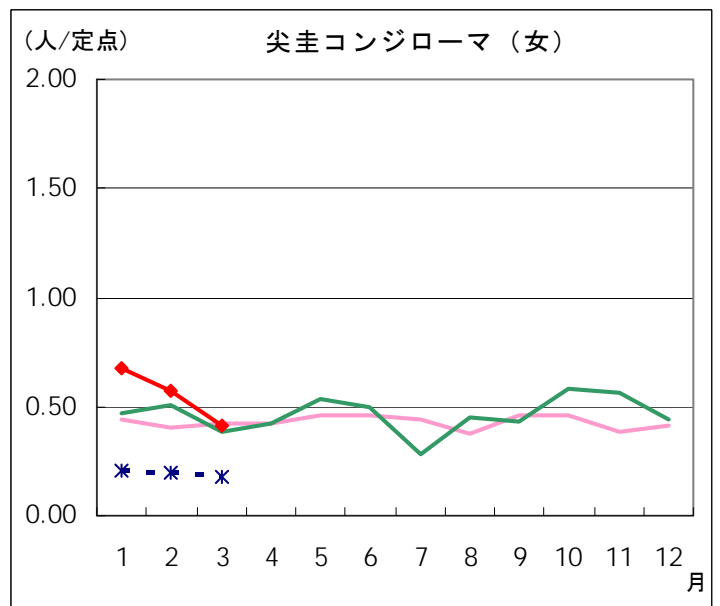
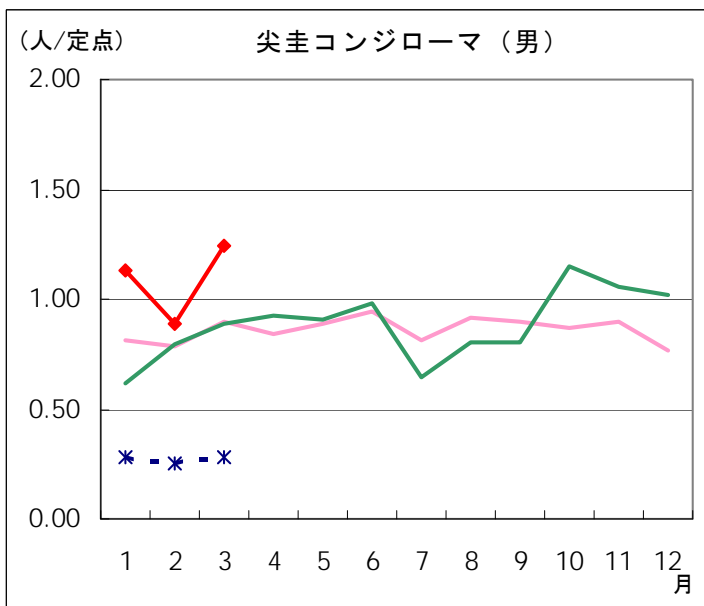
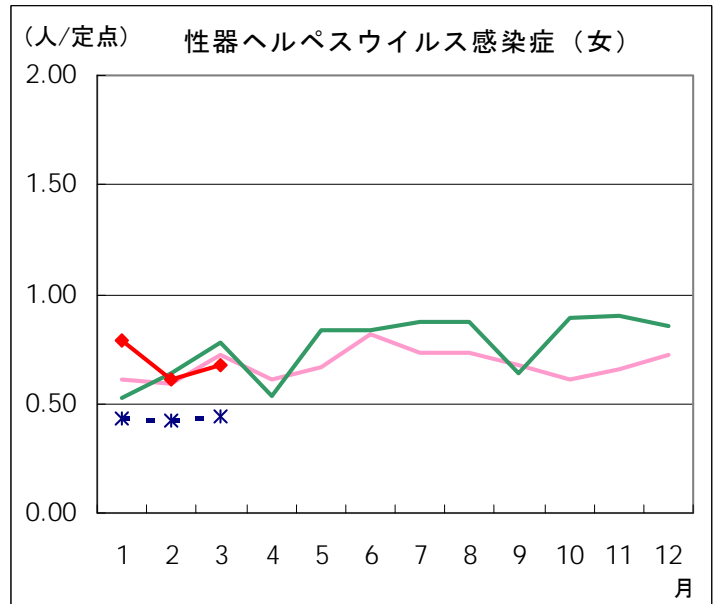
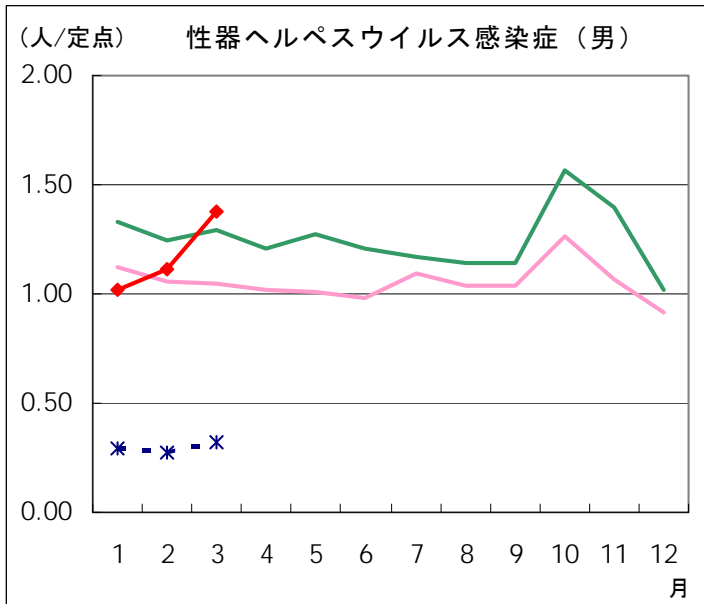
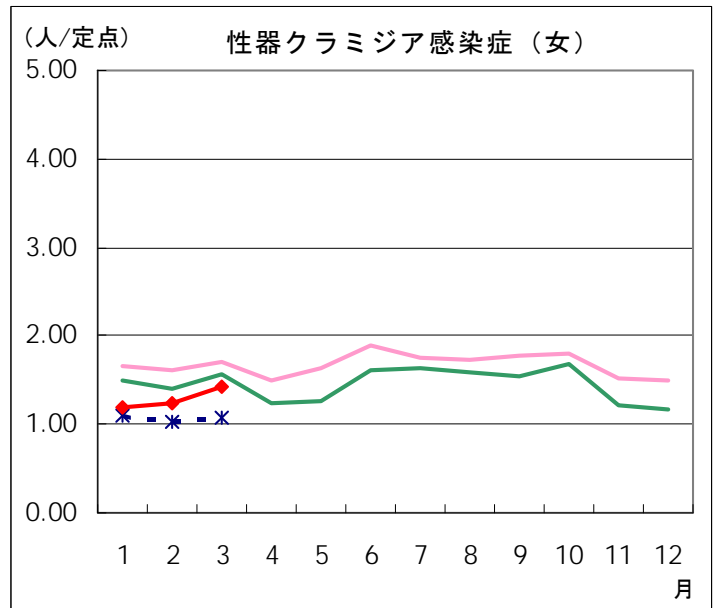
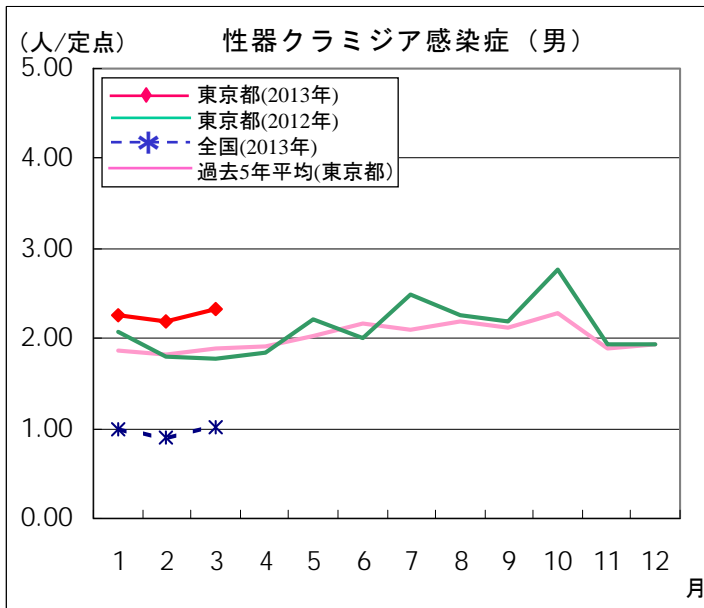
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2013年3月

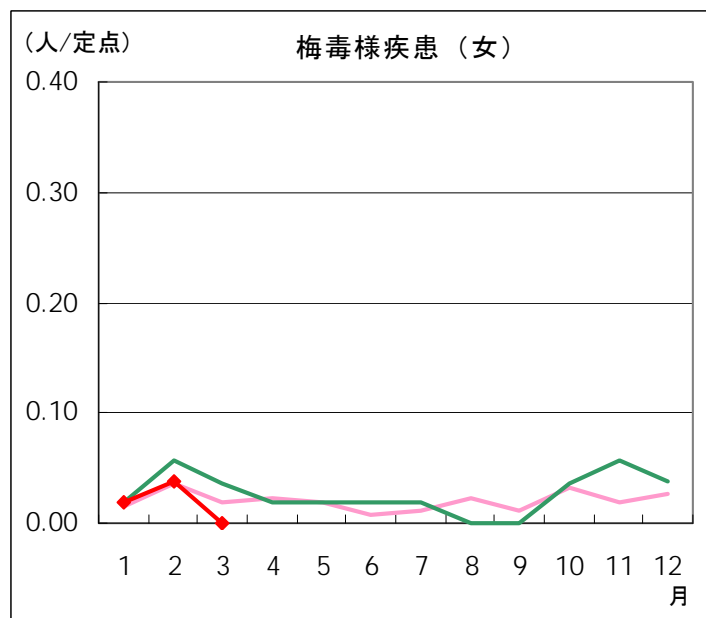
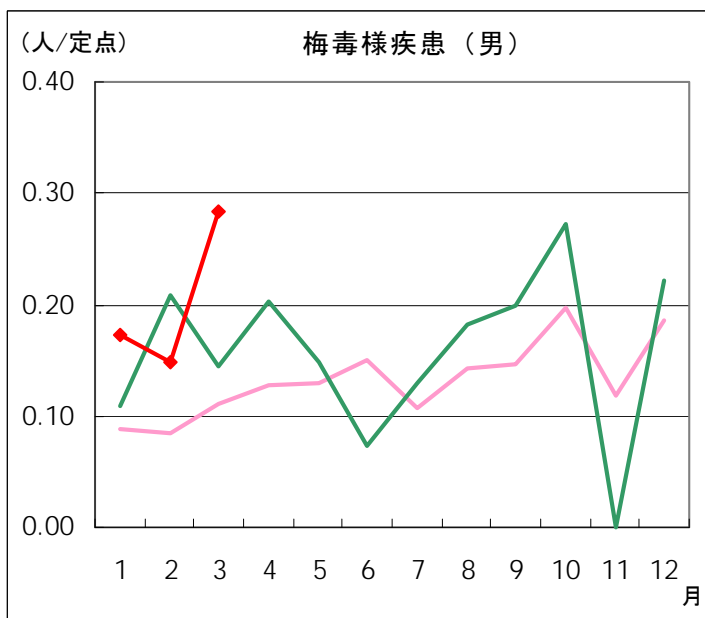
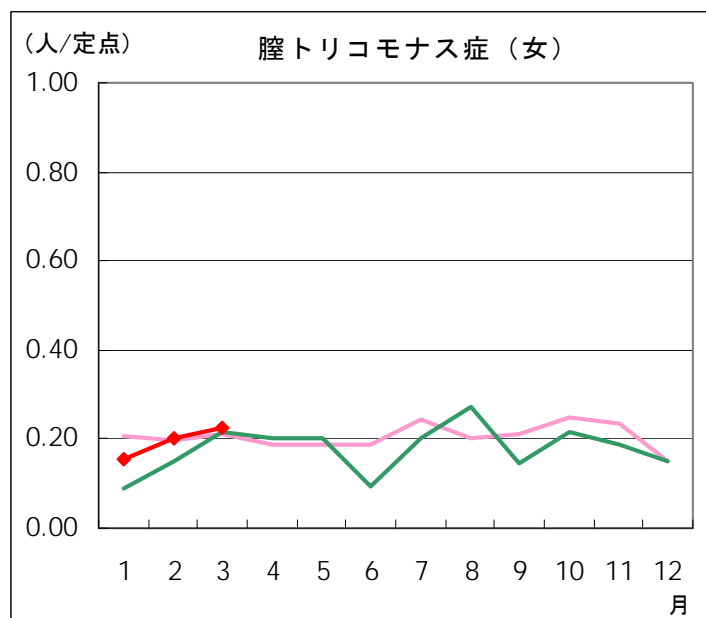
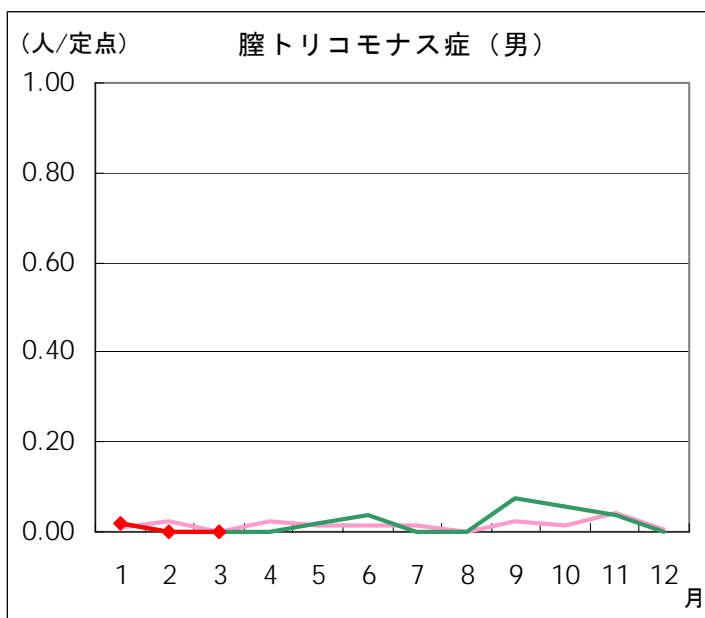
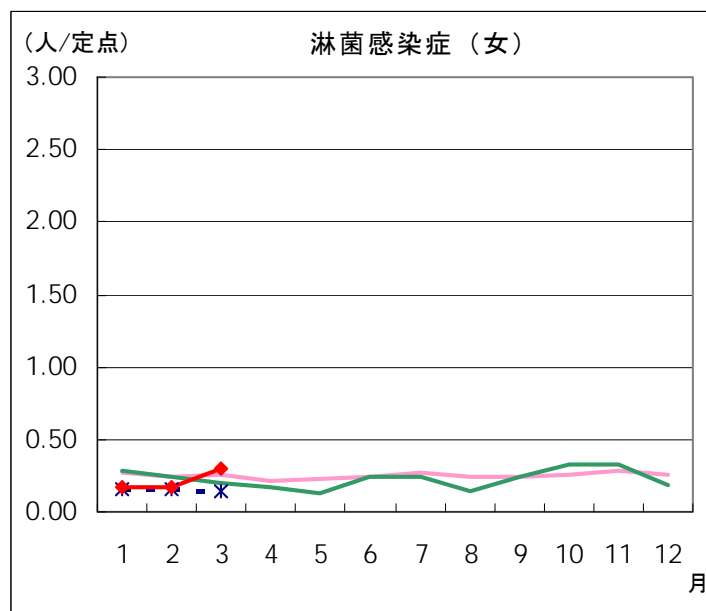
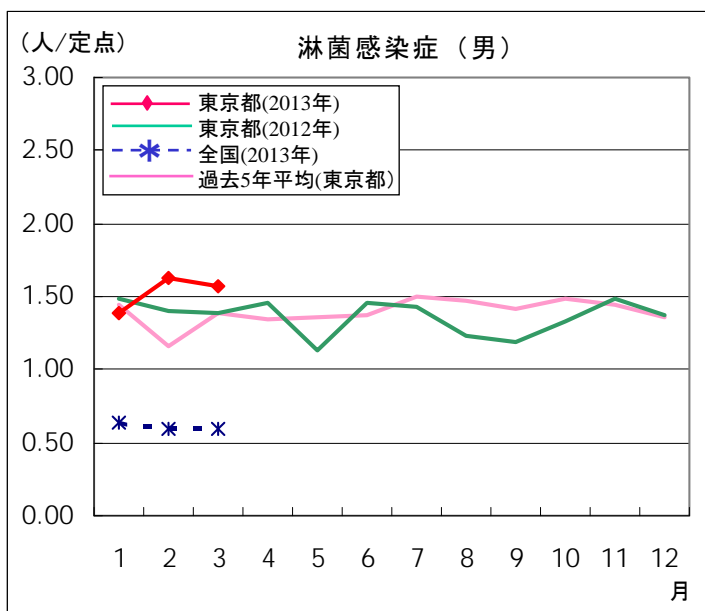
男								
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	陰トリコモナス症	梅毒様疾患	総 計
千代田	2	10	2	13	17		1	43
中央区	3	8	4	1	1			14
みなと	2	13	25	15	3			56
新宿区	7	23	13	23	22		10	91
文京	1	8	1	3	5			17
台東	2							
墨田区	2	1	4		6			11
江東区	2	14	8	2	9		1	34
品川区	1	9	5	2	5			21
大田区	2	4			2			6
渋谷区	4	7	3		2			12
中野区	2	4	1		2		2	9
杉並	2	2	1	1			1	5
池袋	3	11	4	5	4			24
北区	1							
荒川区	1							
板橋区	2	3			4			7
足立	2	2		1	1			4
江戸川	2	3	2					5
八王子市	4							
町田市	1	1						1
多摩立川	2							
多摩府中	2							
多摩小平	1							
合 計	53	123	73	66	83		15	360
定点当たり		2.32	1.38	1.25	1.57		0.28	6.79

女								
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	陰トリコモナス症	梅毒様疾患	総 計
千代田	2	1			1			2
中央区	3	1			1			2
みなと	2	3	5	7				15
新宿区	7	8	10	7	7	2		34
文京	1		2					2
台東	2	1						1
墨田区	2	1		1				2
江東区	2				1	1		2
品川区	1	1			1			2
大田区	2	7		1				8
渋谷区	4	3	1	1				5
中野区	2			1		5		6
杉並	2		1					1
池袋	3	13	4	3	1	1		22
北区	1							
荒川区	1	3						3
板橋区	2	5	3	1				9
足立	2	3			1			4
江戸川	2	5	2					7
八王子市	4	3	1		1	1		6
町田市	1	8	2					10
多摩立川	2	8	4		2	2		16
多摩府中	2	1						1
多摩小平	1		1					1
合 計	53	75	36	22	16	12		161
定点当たり		1.42	0.68	0.42	0.30	0.23		3.04

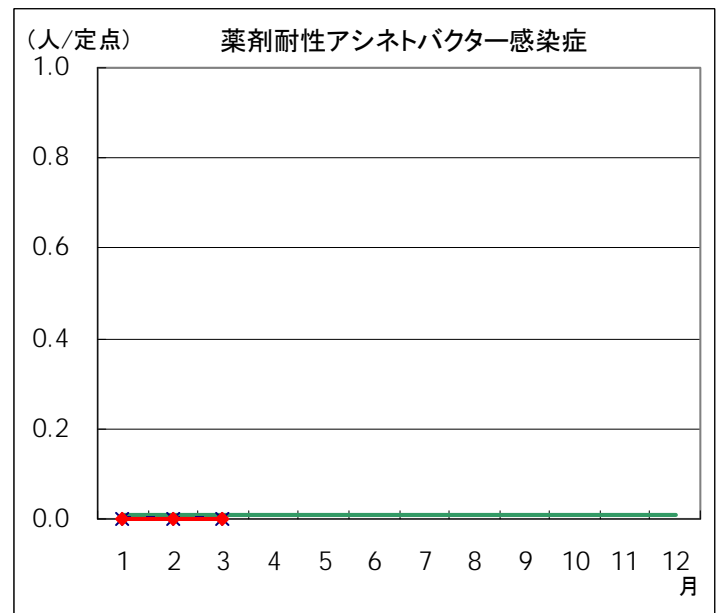
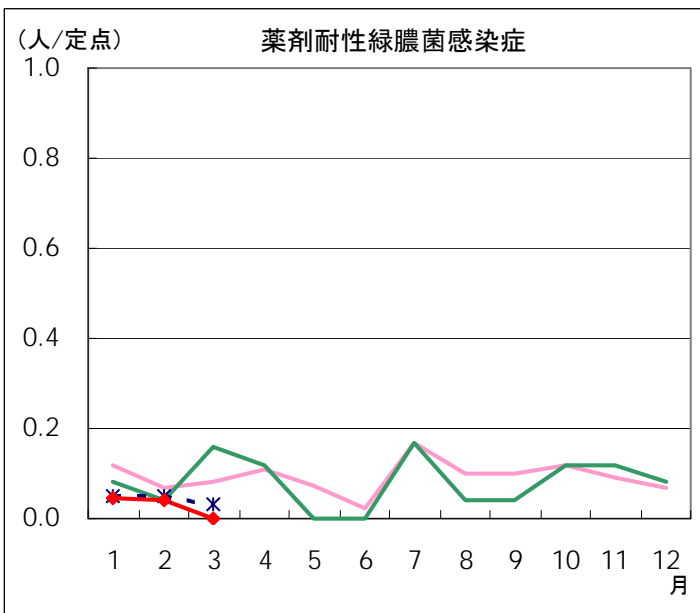
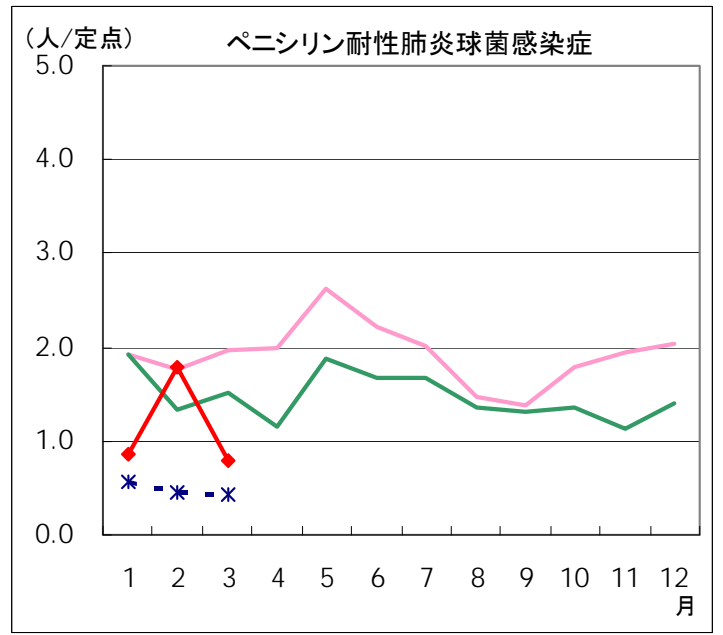
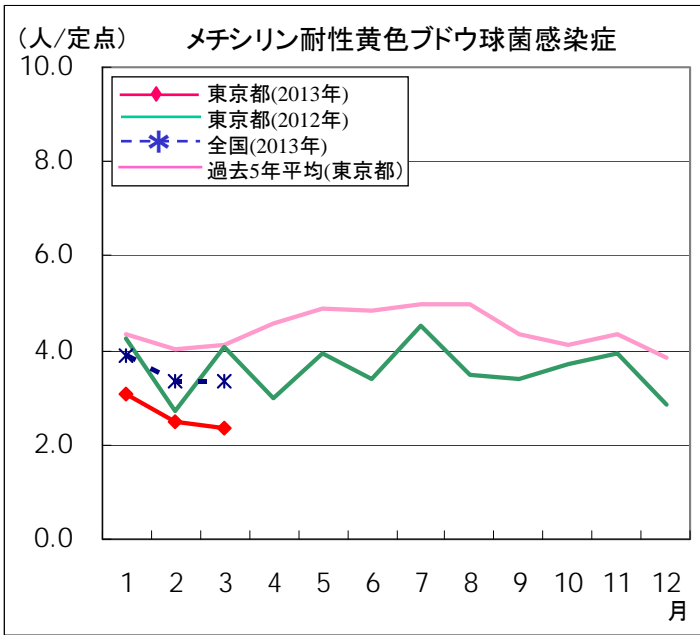
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2013年3月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇病原体検出状況

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
3/6	尿道炎	19	男	尿	クラミジア	遺伝子
3/27	淋菌性尿道炎	19	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌 クラミジア	
3/27	淋菌性尿道炎	21	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌 クラミジア	
3/13	尿道炎	25	男	尿	淋菌	
3/13	尿道炎	25	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	
3/27	尿道炎	27	男	尿	クラミジア	
3/6	尿道炎	29	男	尿	クラミジア	
3/4	ヒトパピローマウイルス 感染症疑い	30	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 16型	
3/13	尿道炎	30	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	髄膜炎菌	分離同定
3/4	性器ヘルペス (再発疑い)	35	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	遺伝子
3/15	尖圭コンジローマ	35	男	コンジローマ患部生検	ヒトパピローマウイルス 6型	
3/22	尿道炎	35	男	尿	淋菌 クラミジア	
3/22	尖圭コンジローマ	36	男	コンジローマ患部生検	ヒトパピローマウイルス 6型	
3/6	尖圭コンジローマ (肛囲)	39	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	
3/27	尿道炎	39	男	尿	クラミジア	
3/13	淋菌性尿道炎	42	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	髄膜炎菌	分離同定
3/13	尿道炎	44	男	尿	クラミジア	遺伝子
3/6	陰茎ヘルペス	46	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	
3/6	陰茎コンジローマ	61	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	
3/13	尿道炎	63	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	

<感染症豆知識>

ワクチンの同時接種

いわゆるワクチンギャップは、各種ワクチンの導入によって数的に埋まってきたが、運用面においてのギャップが生じてきている。その一つが接種回数の増加への対応である。日本小児科学会では、諸外国ですでに一般的な医療行為として行われている同時接種について、わが国において子どもたちをワクチンで予防できる病気（VPD：Vaccine Preventable Diseases）から守るために、「すべき」ということではないが一般的な医療行為として行っていく必要があるとして、その見解をホームページで発表している（<http://www.jpeds.or.jp/saisin-j.html>）。

■現在わかっていることとして

- 1) 複数のワクチン（生ワクチンを含む）を同時に接種して、それぞれのワクチンに対する有効性について、お互いのワクチンによる干渉はない（例外として、コレラ＋黄熱ワクチン）。
- 2) 複数のワクチン（生ワクチンを含む）を同時に接種して、それぞれのワクチンの有害事象、副反応の頻度が上がることはない。
- 3) 同時接種できるワクチン（生ワクチンを含む）の本数に原則制限はない。

■利点として、

- 1) 各ワクチンの接種率が向上する。
- 2) 子どもたちが VPD から早期に守られる。
- 3) 保護者の経済的、時間的負担が軽減する。
- 4) 医療者の時間的負担が軽減する。

■留意する点として、

- 1) 複数のワクチンを1つのシリンジに混ぜて接種してはいけない。
- 2) 皮下接種部位の候補場所として、上腕外側ならびに大腿前外側があげられる。
- 3) 接種部位の局所反応が出た場合に重ならないように、少なくとも接種部位の間隔を2.5cm以上あける。

同時接種については、諸外国では通常行われていることではあるが、その安全性に関する基礎的研究は少なく、現在国内において接種後のサイトカインの動き等、より安全な方法に向けての研究がすすめられている。また今後としては、DPT/IPV にみられるように、混合ワクチンの開発を進め、注射回数の軽減に努めるべきである。

（文責 川崎市健康安全研究所長 岡部信彦）